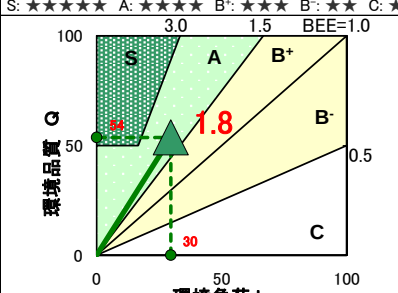
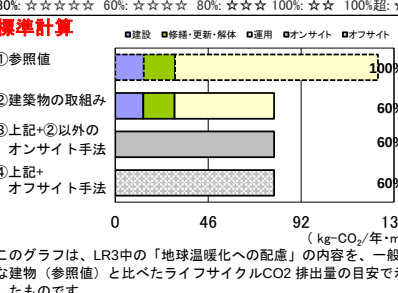
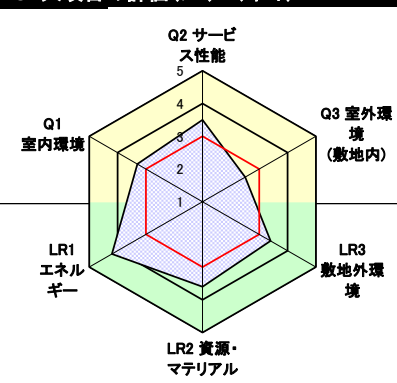


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)中村区名駅南二丁目オフィスビル計画	階数	地上13F
建設地	愛知県名古屋市名駅南二丁目702番2の一部	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	1,200 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,960 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、飲食店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年5月 予定	評価の実施日	2024年7月3日
敷地面積	2,601 m ²	作成者	
建築面積	1,854 m ²	確認日	2024年7月31日
延床面積	16,770 m ²	確認者	

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)		2-3 大項目の評価(レーダーチャート)	
BEE = 1.8 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★ 		標準計算 30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆ ①参照値 ②建築物の取組み ③上記②以外のオンサイト手法 ④上記②以外のオフサイト手法  このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです			

2-4 中項目の評価(バーチャート)	
Q 環境品質	
Q1 室内環境	Q1のスコア= 3.3
Q2 サービス性能	Q2のスコア= 3.5
Q3 室外環境(敷地内)	Q3のスコア= 2.5
Q のスコア= 3.1	
LR 環境負荷低減性	
LR1 エネルギー	LR1のスコア= 4.2
LR2 資源・マテリアル	LR2のスコア= 3.6
LR3 敷地外環境	LR3のスコア= 3.4
LR のスコア= 3.8	

3 設計上の配慮事項	
総合	
『環境と調和』するワークプレイスをコンセプトとし、①都市環境との調和、②周辺環境との調和、③自然環境との調和を図り、合理的で機能性・意匠性に富んだオフィスとしている。	
その他 特記項目なし	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能
・ブラインドおよびPC板の小庇によりグレアを制御 ・ホルムアルデヒドの放散量が規制対象外 (F☆☆☆☆)の内装材を採用	・事務室の天井高を2.8mとし、屋外の情報を十分に確認できる窓も確保 ・屋外露出ダクト等の90%以上で高寿命化を図る ・空調・給排水配管において、主要な用途上位3種の、2種以上にC以上を使用 ・非常用発電設備を完備 ・基準階高を4.2mとする
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル
[BPI] [BPI _m] = 0.75、[BEI] [BEI _m] = 0.49とし、環境負荷の低減	・節水コマに加えて、省水型機器を採用
Q3 室外環境(敷地内)	LR3 敷地外環境
建物の外装や色彩において、周辺の街並みや風景にバランスよく調和した計画	・ライフサイクルCO ₂ 排出率を一般の建物の60%まで低減(標準計算による) ・管理用車両や荷捌き用車両の駐車施設を確保 ・光害対策ガイドラインの各チェックリストの過半を満足

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

〔仮称〕中村区名駅南二丁目オフィスビル計画

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.0
LR1	エネルギー	4.2	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.5	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	1.0	0.05	
2. 自然共生				1.0
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	1.0	0.045	
3. 循環型社会				3.7
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.9	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.0



2. 自然共生

評価点 = 1.0



3. 循環型社会

評価点 = 3.7



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。